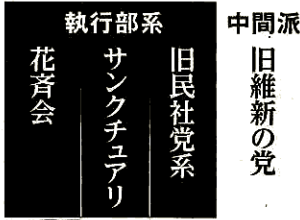
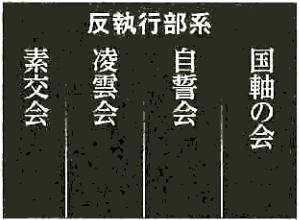


蓮舫氏、立候補検討

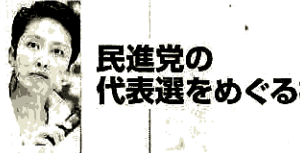
民進代表選 長島氏は意欲

民進党の岡田克也代表が退任表明したことを受け、党内では9月の代表選に向け、各議員グループが動き始めた。蓮舫代表代行が立候補を検討し、長島昭久元防衛副大臣も意欲を示す。岡田氏が敷いた野党共闘路線への評価や憲法改正への対応が争点となりそうだ。

前原・細野氏も模索



長島昭久 衆院議員
前原誠司 元外相
細野豪志 元環境相



民進党の代表選をめぐる構図

野田佳彦 前首相
蓮舫 代表代行
赤松広隆 前衆院副議長
高木義明 元文科相
松野頼久 旧維新代表
江田憲司 代表代行

岡田氏の野党共闘路線を引き継ぐ有力候補と目されるのが、今回の参院選東京選挙区でトップ当選した蓮舫代表代行だ。

蓮舫氏は1日、岡田氏を支えてきた党重鎮と会談を重ねて意見交換し、立候補の検討に入った。都知事選の野党統一候補にも名が挙がるほど知名度が高く、党内からも「蓮舫氏は有資格者」（党幹部）と推す声がある。

ただ、前原、細野、長島の議員グループはいずれも少数で、「バラバラに戦っては意味がない」（長島氏）のが現実だ。3氏のグループが一本化しても多数派は形成できず、党内の動向を見極める考えだ。

岡田氏は、任期限りの退任を表明した30日の記者会見で、意中の後継候補には言及しなかったものの、次期執行部に対して「今まで成し遂げてきたことを肯定的に前に進めてもらいたい」と注文。共産党などとの共闘路線の継承を望む考えを強くにじませた。

一方、長島元防衛副大臣は1日、国会内で記者団に「政権交代の原動力になっていた大事な支援者が離反している」と語り、野党共闘路線を批判したうえで、代表選に立候補する意欲を示した。

執行部と反執行部の攻防を左右するのは、リベラル色の強い赤松広隆前衆院副議長グループや、3月に民進へ合流した旧維新の党出身議員らのグループの動向だ。いずれも20人程度の勢力があり、代表選の形勢を決定付ける可能性もある。

蓮舫氏の所属グループを率いる野田佳彦前首相らと会談し、共闘継続を前提に代表選への対応などを協議したとみられる。

岡田氏が「退場」したことで、野党共闘に慎重だった改憲派の前原誠司元代表や細野豪志元環境相らも立候補を模索し始めた。

岡田氏は27、28の両日、

岡田氏は「退場」したことで、野党共闘に慎重だった改憲派の前原誠司元代表や細野豪志元環境相らも立候補を模索し始めた。

岡田氏は「退場」したことで、野党共闘に慎重だった改憲派の前原誠司元代表や細野豪志元環境相らも立候補を模索し始めた。

(菊地直己、高橋健次郎)